

商店建築

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF SHOP DESIGN & INTERIOR DESIGN



- FEATURE ARTICLE 1 | ホテル&旅館
-
- FEATURE ARTICLE 2 | ブティック&ファッションストア
-
- FEATURE ARTICLE 3 | スイーツ・ショップ

2008
APRIL
VOL.53
No.4

SHOTENKENCHIKU-SHA
CO.,LTD.

4



上ノ京都御所に近接するロケーション。岡田新一氏の設計によるオフィスビルの外観には手を加えず、内装をリノベーションしている。右ノメインエントランス前のショップエリア

HOTEL SCREEN KYOTO

京都市中京区寺町通竹屋町上ル下御霊前町642-1

全13タイプの客室を選べるスモールホテル

設計ノ藤聡志建築設計事務所(共用部) eager(共用部・客室)

協力ノ中村香敷 島田昭彦 塔田明子 齊藤上太郎

伊賀祐郎 鈴木克典 Salvatore Barbiera

Pirada Senivongse Ayudhya & Paradis Senivongse Ayudhya

Hikaru Kitai Satoru Tanaka 栗田泰司 Dominique Lutringer

Mike Studio (SAM Liu)

施工ノ勇斗建設

HOTEL SCREEN KYOTO

Designer Satoshi Seki + eager

撮影ノ松岡宏和





“和”のもてなし

京都御所の近傍、丸太町寺町にこのホテルはある。最高裁判所を手掛けた建築家、岡田新一氏の作品をリノベーションするという、私にとっては少々気の重い仕事のように思えたのだが、その重厚な外観や、バブル期の建築らしい絢爛豪華さは、私のデザイン魂を揺さ振るには十分であった。客室に世界の若手デザイナーを起用するというクライアントのアイデアもそれに拍車を掛けた。

しかし、“静頭多くして船山に登る”の例えにあるとおり、キャリアも作法も異なるデザイナー陣の意図を実現させることは、筆舌につくし難い時間と労苦を伴うものであった。本来の私の仕事である、公共スペースや外観のデザイン業務はさておき、英語で表記された図面やパース一枚のみのプレゼン図を、文字通り翻訳して施工者に伝達することや、工程管理、予算調整が煩雑さを極めた。特に、行政との許認可を巡るやりとりは、京都でのこのような案件の困難さを熟知していた私にとっても想像を超えるものであった。

ともあれ、難産の末に誕生した京都初のヤレクタブルホテルで、世界のデザイントレンドの居心地と、京都ならではの伝統的な和のもてなしを比べてみるというのも一興ではないだろうか。 (關 聡志)

左頁/地下1階にあるロビー。中央の照明は和傘の考案が手掛けたオリジナルペンダント。上/地下1階のフュージョンスタイルレストラン「ブロン・ロネリ」。左/レストランと隣り合う地下1階のラウンジ「流々」。



上/テキスタイルデザイナー・齊藤上太郎氏による西陣織を壁面に貼った2階の客室201前の通路 左/ロ木西奈・中村哲視氏によるデザインの客室101 右/座敷を設けた客室102。デザインはクリップの島田聡彦氏が手掛けた

上/イタリアのアーティストディレクター-Savatore Barberis氏による森をモチーフにした客室203 右/インテリアデザイナー-田中丁氏がデザインした、黒をベースにした客室304

